



令和8年度入学式

看護学部父母会会長就任にあたって

父母会会長 若林 知美



日頃より父母会活動にご協力、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。この度、5月16日(土)に開催されました令和8年度定期総会にて、会長職を拝命いたしました。昨年度までの父母会での活動経験を活かし、愛知医科大学看護学部のさらなる発展と、学生及び保護者の皆様にバックアップできるよう尽力してまいります。

父母会は設立25年目を迎えました。これもひとえに、会員の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。これまで、学生行事や福利厚生の実施、学外実習に伴う交通費の助成、国家試験対策講座の開催など、多岐にわたる学生支援とともに、大学運営にも貢献してまいりました。

超高齢社会に突入している現代において、人員構成の変化により看護業界にも様々な課題が生じています。看護師不足の他、在宅看護のニーズ増加への対応や多数の疾患を抱えた患者のケア等、看護師に求められる役割の重要性は増えています。

父母会では、今後も会員の皆様からの貴重なご意見をお聞きしながら、看護師・保健師国家試験の高い合格率を維持し、医療業界で益々活躍することが期待される学生の支援を継続しつつ、さらに発展させていく所存です。引き続き、父母会活動へのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

CONTENTS

学長・看護学部長あいさつ	P1
令和8年度入学式	P1
令和8年度定期総会及び議事録	P2
令和8年度定期総会ご来賓からの報告	P3
令和7年度卒業証書・学位記授与式	P5
令和7年度卒業時成績優秀者表彰	P5
令和7年度保健師・看護師国家試験結果	P6
会員だより	P7

■年間スケジュールは父母会ホームページをご覧ください。

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/fubokai/>

■父母会会報へのご意見・ご要望をお聞かせください。

学是「具眼考究」を目標に、自らを磨いてください

学長 伊藤 恭彦



看護学部学生の皆さんは、講義や実習、課外活動などに忙しい日々を過ごしていることと思います。充実した学生生活の中で、常に目標を持ち、その実現に向かって努力を重ねていただきたいと思います。

近年、AI や再生医療をはじめとする技術革新や先端医療の進展、超高齢社会への対応、地域医療の充実など、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、どのような時代にあっても、医療・看護の対象が「人」であることに変わりはありません。

医療・看護には、「診る」「見る」「観る」「視る」、そして「看る」という多様な視点が求められます。本学の学是である「具眼考究」は、こうした視点をもって患者さんを全人的に理解し、その本質を深く考え、適切に対応することを意味します。患者さんのわずかな変化にも気づく力を養い、質の高い医療・看護の実践へとつなげてほしいと願っています。

愛知医科大学看護学部では、大学院看護学研究科博士後期課程の Ph.D コースおよび DNP コースを設置し、充実した教育体制を整え進化しています。

看護学部父母会の皆様には、日頃より本学の教育活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

看護学部の更なる充実に向けて

看護学部長 若杉 里実



看護学部父母会の皆様には、日頃から多大なるご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

看護学部では、令和4年度から新カリキュラムをスタートさせ4年目を迎え、評価及び見直しを行い、カリキュラム変更届を文部科学省に提出し、令和7年12月16日に承認されました。今後は、看護実践能力を確実に修得できるためのカリキュラム開発を目指して、コンピテンシー基盤型教育カリキュラムへの転換を進めていきます。また、地域との交流を通じた社会貢献プログラム「愛Kind」を開始し、看護職者として必要な共感力・協働・社会的責任感の育成を目指していきます。

看護学部のセンターとしては、令和7年4月に、ユニフィケーション部門、生涯学修支援部門、地域連携部門、研究部門の4部門で構成される「ヘルスケア共創センター」を設置しました。大学・病院・地域が有機的につながりあうプラットフォームとなることをめざしていきます。

大学院看護学研究科は、令和7年4月に、博士後期課程のPh.Dコース (Doctor of Philosophy in Nursing) とDNPコース (Doctor of Nursing Practice) の2コースを同時に開設しました。

修士課程から博士後期課程までの一貫した博士課程教育のカリキュラムを構築していきます。

看護学部の更なる充実に向けては、父母会の皆様のご理解、ご協力が欠かせません。今後も引き続き、ご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

令和8年度入学式

令和8年度入学式が、令和8年4月5日(日)午前10時から大学本館たちばなホールにて挙行され、看護学部104名、医学部116名が入学しました。

初めに、伊藤学長からの式辞があり、その後、新入学生を代表して医学部の青木和奏さんが宣誓を行いました。最後に、在学学生を代表して看護学部4学年次生の伊賀美尋さんから新入学生歓迎の辞が述べられ、式は終了しました。



令和8年度父母会定期総会及び議事録

令和8年度愛知医科大学看護学部父母会定期総会をオンライン開催とし、令和8年5月16日(土)午前10時から愛知医科大学看護学部棟3階N301講義室において開催いたしました。

令和8年度看護学部父母会定期総会議事録よりご報告いたします。

- 1.出席者数は、出席者47名、議決権行使による承認数259名を含め306名であり、会員総数445名の過半数を超えたため、本会会則の規定により本総会は成立しました。
- 2.田上会長から、令和8年度定期総会の開催宣言及び挨拶があり、定期総会が開催されました。
- 3.本会会則に基づき田上会長が議長となり、議事録署名人として角前 桃理事と松原由紀子理事を指名し、本日の議事を進行しました。
- 4.議事



(1)令和7年度事業報告および令和7年度決算報告[一般会計及び特別会計]について事前送付資料に基づき報告があり、審議の結果、いずれも原案どおり承認された。

引き続き、令和7年度会計監査について監事より4月11日(土)監査を行った旨の報告があった。

(2)令和8年度事業計画および令和8年度予算[一般会計及び特別会計]について事前送付資料に基づき説明があり、審議の結果、いずれも原案どおり承認された。

(3) 令和8年度役員の選任について、議長から本会会則に基づく説明があり、審議の結果、役員候補者が承認され、令和8年度の役員として、会長に若林知美氏、副会長2名、理事9名、会計2名および監事2名、計16名を選任した。

以上をもって定期総会を閉会し、引き続き、ご来賓よりご挨拶とご報告をいただいた。

(5) 来賓挨拶

若杉里実看護学部長

(6)「令和8年度の看護学部の取り組み」について (3ページ参照)

若杉里実看護学部長

(7)「有意義な大学生活を支えるために～最近のTopics～」 (4ページ参照)

心光世津子教務学生部長

令和8年度父母会役員(敬称略)

会 長

4学年次 若林 知美

副会長

4学年次 丹羽 智子

3学年次 平綱佳奈恵

理 事

4学年次 竹下 正恵

4学年次 戸塚 悦子

2学年次 大場 保英

2学年次 松原由紀子

1学年次 杉村 智哉

1学年次 名倉美佐子

1学年次 仁志 広幸

1学年次 細谷 陽子

1学年次 山森 絵美

会 計

2学年次 角前 桃

2学年次 内匠 恵理

監 事

2学年次 伊達 広子

2学年次 土門 志保

1「令和8年度の看護学部取り組み」について(若杉里実看護学部長)

■令和7(2025)年度卒業生看護師国家試験・保健師国家試験結果について

6ページの「令和7年度保健師・看護師国家試験結果について」をご覧ください。

■国家試験対策について

- ・2学年次: 国家試験必修問題の模擬試験
- ・3学年次: 240問の模擬試験
- ・4学年次:
 - 看護師:対策講座(東京アカデミー:全18コマ)
 - 模擬試験:4回実施
 - 寺子屋学習サポート会:3回実施
 - 模擬試験の全国基準結果、支援が必要な学生については、学習習慣の定着と合格ラインに入ることを目的に支援
 - 保健師:対策講座(看護学部教員が2回実施)
 - 模擬試験:3回実施

■大学行事について

- ・入学式 4月5日(日)
- ・2学年次生キャンドルセレモニー 6月13日(土)

■看護学部のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) ルーブリック(評価基準)

学生便覧、HPにも掲載

評価基準に「自己を見つめ、キャリアデザインを自律的に描くことができる」がある。

令和8年度1学年次生から実施。5年後のキャリアデザインを思い描いて卒業してほしい。

・キャリアとは

キャリアとは働くということだけでなく、これまで歩んできた人生の道のり、経験である。

「内的キャリア」で自分らしさを見つめなおし、実現可能な「外的キャリア」を考え、将来良い形で統合することが大切である。

・愛Kind活動とは

地域とともに育む思いやりの実践プログラム

看護職者として不可欠な「共感力」「協働力」「社会的責任感」を教室外の実践(ボランティア活動)を通じて育む

-活動の3本柱

- ①キャリアを考える(職業キャリアについて学び、自らのキャリアについて探究する)
- ②地域を知る(外部施設や地域活動での交流を通じて、地域社会の実情を肌で感じる)
- ③組織を動かす(大学・病院行事への参加や企画立案を通じて、組織の一員として主体的に動く経験を積む)

■就職に向けた支援について

・1学年次

キャリアプランニング講座(キャリアプランニングの基礎を学ぶ)

マナー講座(入学時に、身だしなみや言葉遣い、SNS等の一般的なマナーを学ぶ)

・2学年次

就職支援講座(現在の就職状況についての講話、病院への電話やメール、訪問時等のマナーを学ぶ)

・3学年次

履歴書の書き方講座(履歴書のブラッシュアップ、面接対策)

卒業生による進路懇談会

模擬面接

・4学年次

アドバイザーによる履歴書の添削と面接の練習

■看護学部から大学院までの学びの継続とキャリアアップ

看護学部で4年間学び、その後働きながら看護職のキャリアアップをめざす。

■経済面での対応について

・国の修学支援(新制度)による授業料減免やその他奨学金などの迅速な対応を行っております。

(高等教育の修学支援制度、日本学生支援機構貸与型奨学金、その他の奨学金などの情報提供)

・令和4(2022)年度の新入学生から、ICT活用の促進およびペーパーレス化を目的に講義等でタブレットを使用しています。準備が間に合わない場合は、iPadの貸与を行っています。

今後も学生の皆さまにとって、より豊かな学びができる場となるよう学習環境を整えるとともに、教員の教育力向上に努めてまいります。ご父母の皆さまのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2 有意義な大学生活を支えるために～最近のTopics～（心光世津子教務学生部長）

■近年の看護師等養成制度改革及び看護教育行政の動き

大学での看護教育は、厚生労働省、文部科学省の施策に基づいて、社会情勢や医療ニーズ、大学の担う役割を反映して動いています。

現在は令和2年度改正の指定規則に基づいた教育を行っています。

■我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構成～

急速な少子化が進む中で「知の総和（数×能力）」を向上させるようにと、大学教育全体の方向性として「出口における質の保証（厳格な成績評価・卒業認定）」のさらなる推進が目指されています。

■大学での看護教育もコンピテンシー基盤型教育へ

昨年3月に発表された改正版「モデル・コア・カリキュラム」に本学が対応していくためには、どの時点にどこまでの「コンピテンシー（資質や能力）」を身につけるか、今後マイルストーンの設定をし、その評価時期と方法を慎重に検討をしていく必要があります。

■愛知医科大学看護学部教育課程

看護を取り巻く情勢に合わせ、令和4年（2022年）にカリキュラム改訂を行い、その1期生が卒業するタイミングで課題や今後の方向性の分析から、令和8年（2026年）入学生よりカリキュラムをマイナーチェンジしました。

■大学生活を支えるために

在学生の皆様は、集団活動や人との出会いを通して価値観を形成し、自分はどのような人間かと考える中学・高校の時期を、コロナの影響下で過ごしてこられました。

「対人関係」「学修」「課外活動とのバランス（アルバイト・サークル等）」「メンタルヘルス」「進路」など、よく見られる困りごとは大きくは変わらないものの、コロナの影響が感じられる場面もあります。

■困りごとの例

・アルバイトのために学修を削るなど。

背景に、様々な制限や制約がなくなり、友人と自由に外出や旅行を楽しめるようになったことや、時間やお金のやりくりの経験不足が見られるケースがありました。

・グループとの距離の取り方の疲れや、SNS疲れなど。

背景に、中学・高校で対面の集団活動が制限を受け、SNSが唯一のつながりであった影響が考えられます。大学で携帯使用の自由度が高くなる分、人やSNSとの付き合い方で悩まれたりするケースがあります。

いつもと様子が違うなと思われる時など、ご家庭でも話していただけますと幸いです。

・授業のグループワークやプレゼンテーションで行き詰まり、対人関係の困難に気付くなど。

中学・高校での総合的な学習の時間での探究活動やグループワークがコロナ下で減っていたためやりすごせていた課題に、大学入学後に直面して気づくことがあります。

■学生生活面の支援

・アドバイザー制度、学年主任・副主任：修学や学生生活面での指導助言

・学生相談室：メンタルヘルス相談

・学校医：健康上の問題発生時

・ハラスメント窓口：ハラスメント発生時

授業を受け演習・実習を経験すれば自動的に看護職になるわけではなく、どの方々も、在学中に悩み、立ち止まり、直面し、ふんばりながら学びを得て、社会人・職業人へと向かわれます。

大学生活の中で、学生の皆様が主体的に、より有意義な学びを得られるよう、環境や体制を検討し整えてまいります。

ご父母の皆様のご理解、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

学業生活等に関する相談窓口

大学生活におけるさまざまな悩みや困りごとについては、アドバイザー（看護学部教員）や学年主任・副主任をはじめ、複数の相談窓口を設けています。その他、ご不明な点がございましたら、看護学部学生支援課までお問い合わせください。（学生便覧72・73ページ参照）

令和7年度卒業証書・学位記授与式

令和8年3月7日(土) 午前10時から令和7年度卒業証書・学位記授与式が大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。

初めに、祖父江元 学長、笠井謙次医学部長及び若杉里実看護学部長から、医学部卒業生110名、看護学部卒業生95名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。続いて、祖父江学長から告辞があり、その後、在学生を代表して医学部5学年次生の竹澤遥輝さんから送辞が、卒業生を代表して看護学部の山口 雅さんから答辞が述べられ、式は終了しました。卒業生はそれぞれの思いを胸に、新たな一歩を踏み出しました。



令和7年度卒業時成績優秀者表彰

卒業証書・学位記授与式に併せて令和7年度看護学部卒業時成績優秀者表彰が行われました。

この表彰は4年間の在学中に成績優秀及び他の学生の模範となった看護学部生に顕彰され、表彰状と副賞が贈られました。



学長賞
山口 雅さん



看護学部長賞
戸田 陽菜さん



看護学部長賞
村木 沙希さん



看護学部父母会長賞
知浦 ひよりさん



看護学部同窓会長賞
村田 亜弥さん



特別賞
宮崎 亜久里さん

令和7年度卒業記念品除幕式

令和8年3月18日(水)看護学部学生ホールにて卒業記念品除幕式が行われ、「学生ホール用ロビーチェア一式」が寄贈されました。

除幕式には、祖父江学長、若杉看護学部長、本学役職者、教員及び令和7年度卒業生が参加しました。初めに、卒業生を代表して岩橋愛果さんから記念品贈呈のごあいさつがあり、除幕の後、祖父江学長、若杉看護学部長からお礼の言葉をいただきました。



令和7年度保健師・看護師国家試験結果について

令和8年2月に行われました第112回保健師・第115回看護師国家試験の結果は次のとおりです。

試験名	合格(率)		本 学				全 国		
			新卒者		既卒者		全 体		合格者 受験者
	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	新卒	
保 健 師 (第112回)	13/15	86.7%	2/2	100%	15/17	88.2%	6,502/ 7,467	89.9%	87.1%
看 護 師 (第115回)	93/95	97.9%	—	—	93/95	97.9%	52,666/ 59,614	94.1%	88.3%

第23回卒業生の進路状況について

令和7年度卒業生の進路は次のとおりです。

区分	就 職 ・ 進 学 先 等		人数
看護師 (89名)	愛知県 (81名)	愛知医科大学病院	54
		愛知医科大学メディカルセンター	14
		名古屋市立大学病院	3
		名古屋大学医学部附属病院	1
		日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	1
		日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	1
		あいち小児保健医療総合センター	1
		小牧市民病院	1
		トヨタ記念病院	1
		刈谷豊田総合病院	1
		豊田厚生病院	1
		眼科杉田病院	1
		湘南美容クリニック	1
	岐阜県(2名)	岐阜ハートセンター	1
区分	就 職 ・ 進 学 先 等		人数
看護師	岐阜県	大垣市民病院	1
		遠山病院	1
	三重県(1名)	浜松医療センター	1
		静岡県立総合病院	1
	静岡県(2名)	聖路加国際病院	1
		虎の門病院	1
	神奈川県(1名)	神奈川県立こども医療センター	1
	愛知県(1名)	小牧市	1
	進 学 (4名)	愛知県(1名) 名古屋学芸大学別科助産学専攻	1
		岐阜県(1名) 岐阜医療科学大学助産学専攻科	1
		三重県(1名) ユマニテ看護助産専門学校助産専攻科	1
		静岡県(1名) 聖隷クリストファー大学助産学専攻科	1
その他(1名)	(1名)	進路変更	1
合 計			95

子どもが看護学部に入學して数か月が経ちました。

高校時代は勉強と水泳部の活動を両立させ、最後までやり遂げる姿を見てきました。目標に向かって努力を重ねる経験は、これからの大学生活や看護の学びにも生かされることと思います。

大学入学後は新しい環境の中で、専門的な授業や実習に向けた学習に励んでおり、その姿に成長を感じています。一方で、親としては見守ることしかできないもどかしさもありますが、自ら考え行動する姿を頼もしく感じています。

このたび、ご縁があり父母会の役員を務めることになりました。正直なところ、まだ分からないことばかりで、会の活動について学びながら参加している状況です。しかし、父母会を通じて大学の教育や学生支援について知る機会を得るとともに、同じ立場の保護者の皆様と交流できることを強く実感しています。

大学生活は学生本人が主体となるものですが、保護者としてできる形で関わり、応援していきたいと思っています。私自身も父母会活動を通じて学びながら、子どもたちの充実した学校生活の一助となれば幸いです。

愛Crew事業5周年を振り返って～看護チームの必要不可欠な存在へ～

愛知医科大学病院 副院長・看護部長 萬谷 和代

夜間の看護業務の負担軽減のため、学生アルバイト(愛Crew)による夜間看護補助者事業を2021年7月より開始し5周年を迎えました。私たち看護職の仲間である愛Crewは、看護学生104名でスタート、現在では医学部生も加わり200名体制で運営しています。

当初は、コロナ禍で厳重な感染管理のもと限られた業務でした。現在は、患者さんの体位変換、オムツ交換、車椅子への移乗・搬送、食事介助などの直接業務から、配膳、メッセージャー、書類整理などの周辺業務まで多くの業務を担っています。2024年からは看護補助者の24時間365日配置を目指し、看護職員数が少ない土日・祝日の日勤にも配置を拡大、愛Crewは看護チームの一員として必要不可欠な存在となっています。

毎年実施するアンケートでは、「学業とアルバイトの両立ができています」、「自身の成長につながっている」の回答が95%を超え、「患者さんとのコミュニケーションや看護の知識・技術など、多くのことを学ぶことができる」という声が寄せられています。患者さんからは「勇気や元気をもらった」、「自分も頑張らないといけないと思った」等の意見を載えています。看護職と愛Crewの協働は、看護業務の負担軽減だけでなく、学生にとって貴重な学びの場となっています。そして、何より愛Crewの若い力と笑顔は患者さんに元気を与え、より良い療養環境にも繋がっています。

これからも私たち看護職は愛Crewとともに、患者さんに寄り添い入院生活を支えていきます。そして、学生の成長を支え、未来の医療を担う人材育成に繋がる取り組みとして、愛Crew事業をさらに発展させていきたいと考えています。

引き続き、愛Crew事業にご支援いただきますようよろしくお願いします。



懇親会



食事介助の集合研修

編集後記

副会長
編集責任者:丹羽智子

父母会会員の皆さまには、日頃より本会の活動に対しご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

学生たちは、授業や実習に心身ともにエネルギーを注ぐ毎日を送っています。疲れや不安から、弱音をこぼす姿にご心配が尽きないことと思いますが、一歩ずつ成長している証でもあると感じています。学生一人ひとりが安心して学び、看護の専門職として社会で活躍できるよう、これからも大学と力を合わせて応援してまいります。

今後とも、会員の皆さまのあたたかいご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

愛知医科大学看護学部 父母会会報 第50号

発行日 2026年9月1日
発行 愛知医科大学看護学部父母会
発行人 若林知美
編集人 丹羽智子
連絡先 〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
愛知医科大学看護学部父母会事務局
TEL (0561)62-3311 (内線12045)
FAX (0561)61-1834
E-mail: fubokai@aichi-med-u.ac.jp